■第7回オーラルヒストリー・アーカイブ・プロジェクト研究会

「フェミニストアーカイヴィング実践におけるオーラルヒストリーの取り組み
――イギリスの自律的地域アーカイヴの事例から」

"Oral History Efforts in Feminist Archiving Practices: From the Cases of Autonomous Regional Archives in the UK"

講師：村上潔（立命館大学生存学研究所客員研究員）

日時：2025年2月12日（水）16:00～17:30

場所：大阪大学豊中キャンパス芸術棟1階日本B教室

形式：対面＋オンライン配信あり（Zoom）

Info.：http://www.arsvi.com/2020/20250212mk.htm

……

■報告にあたって／報告の前に

◎私と「アーカイヴ」――わずかなつながりは

◆〈町田市立博物館〉

◇博物館学芸員資格課程における実習

◇当時は三多摩地域の民俗誌研究の重要拠点

◇畠山豊さん（学芸員）

◆〈東京大学史料編纂所〉

◇博士前期課程在籍時：科研費研究「東寺における寺院統括組織に関する史料の収集とその総合的研究」（課題番号14310153／基盤研究(B)(2)）に参加した関係で

◇高橋敏子さん（古文書古記録部門助教授〔当時〕）

◎私の歩み／私の研究スタンスを構成する要素

◆実証主義史学（日本中世史研究）［学部入学直後～博士前期課程修了まで］

◇その作法を学部入学直後に厳しく叩き込まれて以来、現時点までずっとこの方法論で研究活動を続けてきました。

◇当時の専門分野：14世紀後期寺社領荘園における在地社会分析（特に惣荘主体の運営実態について）

◆DIYフェミニズム

◇文化／表現／運動コレクティヴへのアプローチ

◇音楽／映画ライターとしての活動から

◇関連：ウーマンリブ／主婦労働／エコフェミニズム／アナーカフェミニズム／ジンカルチャー

◎アーカイヴィングに関係する成果

◆調査事業

◇平成18年度京都市男女共同参画講座受講生参考資料（女性解放運動関係）収集調査
http://www.arsvi.com/2000/20070331nk.htm

◆論文

◇20210715　「地域のウーマンリブ運動資料のアーカイヴィング実践がもつ可能性――二〇〇〇年代京都市における活動経験とその先にある地平」，大野光明・小杉亮子・松井隆志編『［社会運動史研究 3］メディアがひらく運動史』，新曜社，72-94
http://www.arsvi.com/2020/20210715mk.htm

◆連載

◇20231111　「【連載】ジン［Zine］、アーカイヴィング、アクティヴィズム――その連動する展開がひらく地平（全4回）第4回：図書館員・アーキヴィストたちが力を合わせて積み上げてきた場と仕組み」，Webマガジン『AMeeT』（一般財団法人NISSHA財団），2023年11月11日，（https://www.ameet.jp/digital-archives/4939/）

◇20230803　「【連載】ジン［Zine］、アーカイヴィング、アクティヴィズム――その連動する展開がひらく地平（全4回）第3回：〈56a インフォショップ〉のDIYアーカイヴィング実践（後編）」，Webマガジン『AMeeT』（一般財団法人NISSHA財団），2023年8月3日，（https://www.ameet.jp/digital-archives/4758/）

◇20230701　「【連載】ジン［Zine］、アーカイヴィング、アクティヴィズム――その連動する展開がひらく地平（全4回）第2回：〈56a インフォショップ〉のDIYアーカイヴィング実践（前編）」，Webマガジン『AMeeT』（一般財団法人NISSHA財団），2023年7月1日，（https://www.ameet.jp/digital-archives/4719/）

◇20230510　「【連載】ジン［Zine］、アーカイヴィング、アクティヴィズム――その連動する展開がひらく地平（全4回）第1回：収集・保存・公開における本質的課題」，Webマガジン『AMeeT』（一般財団法人NISSHA財団），2023年5月10日，（https://www.ameet.jp/digital-archives/4628/）

◆翻訳

◇Knight, Rosie, 2018, "How Zine Libraries Are Highlighting Marginalized Voices", BuzzFeed News, December 30, 2018, (https://www.buzzfeednews.com/article/rosieoknight/zines-libraries-marginalized-voices).＝2019，村上潔訳，「ジン・ライブラリーはいかにして周縁化された声を強調しているのか」，arsvi.com：立命館大学生存学研究所，2019年8月29日，（http://www.arsvi.com/2010/20190829mk.htm

◆講義

◇神戸市外国語大学2024年度前期科目《ジェンダー論入門》「アーカイヴィングから見るジェンダー」

http://www.arsvi.com/d/2024igs.htm
◆Webページ作成――〈arsvi.com：立命館大学生存学研究所〉
◇アーカイビング――障害／クィア／BIPOC／フェミニズム（海外）
http://www.arsvi.com/a/arc-w.htm

◎オーラルヒストリーに関係する成果
◆インタヴュー
◇滝川マリ・冬木花衣・ぶんた（聞き手：村上潔）　20070731　「［インタビュー］八〇年代京都におけるリブ運動の模索――〈とおからじ舎〉へ、そして、それから。」，『PACE』03:36-49　【Web掲載：20200927】
http://www.arsvi.com/2000/20070731mk.htm
＊音楽／映画ライターとして執筆したインタヴュー記事については省略

……

■はじめに
◎1　フェミニストアーカイヴィングを捉える視座
◆フェミニストアーカイヴの存在意義
―“アーカイヴとは、権力と抑圧の構造の一部である。”（Hudson 2023）
―“女性の権利が（より広範なLGBTQ+の人々と共に）いまだに脅かされ、私たちの身体が暴力・貧困・健康障害から来る危機に晒されている現状において、フェミニズムの分析と実践は、文化的生産とその物質化、ならびにシステムのあらゆる領域にわたって求められている。”（Hudson, Marc, 2023）
―“フェミニストアーカイヴは、フェミニストの政治運動の副産物以上のものである。アーカイヴィングの実践は戦略的なフェミニズムの活動であり、それはアーティストやアーキヴィストが知を生産するために活用される。”（Royal Academy of Arts 2019）
◆アーカイヴ／アーカイヴィングの権力性
◇中立・客観の装置ではない――歴史（学）がそうであるように
◇「公」と「私」／「生産」と「再生産」／家父長制／植民地主義
◇国家の正統性／統治原理の担保装置
――差別性・暴力性が不可分に付随
◆なぜフェミニストアーカイヴィングが重要なのか
◇抑圧的権力構造の是正・廃絶・相対化というフェミニズムのエッセンスを体現する営み（の一つ）
◇共有に値する誇るべき歴史を記録し・残し・確定する
┃疎外・抑圧されてきた女性たちの存在と功績を証明する場所・機関・制度を確保する
◇アクティヴで／アクティヴィズムであること
┃歴史を構築する主体性・当事者性
┃アーカイヴィングという営みの刷新――ジェンダー区分の乗り越え／「専門的」権威性の

否定
┃現代／現在の運動へのフィードバック＝強化役割
┃新たな／広範な組織化に寄与
◇「自律的実践」としてあること
┃協同作業／労働（Cooperative Work）
┃エンパワーメント
┃親密性と信頼関係の構築
◇学習・研究・啓蒙
┃知の再生産と活用・展開・拡張
┃世代間継承
……

■本論

◎2　歴史（学）とジェンダー／フェミニズム

◆女性史・ジェンダー史・フェミニストヒストリー
【参考】http://www.arsvi.com/d/2021igs.htm
◇時代的推移のみならず理念・コンセプト・視点・立ち位置のズレがもつ意味
┃対象の多様化
┃主体性の変化
┃自己相対化・自己批判
◆伝統的学問体系を揺るがす
◇歴史学にとどまらず……
┃社会学・政治学・経済学・文学・哲学……
◇一般社会への領域拡張
┃裾野の広さ：主婦
┃住民運動・生協運動・環境運動……

◎3　オーラルヒストリーとジェンダー／フェミニズム

◆記録されない歴史
◇文書資料の対象外
◇「研究」の対象外（特定の「偉人」の例を除き）
┃「社会史」という限定的枠組み
- 序列化
→☆歴史学における［男＞女］の関係＝［史料＞口述記録］に対応
◆草の根の実践として
◇ジャーナリズム・民俗誌
◇学習サークル（主に主婦向け）
◆女性の／による「聞き書き」：日本

◇森崎和江・石牟礼道子・藤本和子……
【参考】http://www.arsvi.com/d/2022igs.htm
◇現状では：アプローチ・実践（の過程／技法）そのものが研究対象となっている

◎4　イギリスにおけるフェミニストアーカイヴィング

◆主要な機関
◇大規模
┃〈Women's Library〉（ロンドン）〔U〕
┃〈Glasgow Women's Library〉（グラスゴー）
◇中規模
┃〈Feminist Library〉（ロンドン）＊→〈Bishopsgate Institute〉に部分移管
┃〈Feminist Archive (East Midlands)〉（FME）＆〈Feminist Publications Collection〉（FPC）（ノッティンガム）〔U〕
【以上：参考】http://www.arsvi.com/d/2024igs.htm
＋
┃〈Feminist Archive North〉（FAN）（リーズ）〔U〕
┃〈Feminist Archive South〉（FAS）（ブリストル）〔U〕
◇いずれもスタートはインディペンデント
┃制度化・システム化（――＋権威化？）
┃〔U〕：現在は大学内の機関として管理・運営されている。
◆全国ネットワーク
◇FLA (Feminist and Women's Libraries and Archives) Network
https://fla-network.com
┃"UK Feminist Archives and Libraries"
https://fla-network.com/directory/directory-of-uk-feminist-archives-libraries/

◎5　事例1：マンチェスター

◆マンチェスターの少数民族女性によるオーラルヒストリー・プロジェクト
- （Mohdin 2023）
◇活動内容：黒人ならびにアジア系女性の妊娠・出産時の経験／文化的慣習／伝統を記録する
◇主体：〈ホールディング・ハースペース［Holding Her Space］〉（2018年設立）
- https://holdingherspace.com
┃対象：少数民族の出自をもつ（マイノリティ・エスニック）、新たに母親になった、ならびに母親になる予定の女性。
┃目的・アプローチ・性格
- 文化的に適切なリソースを創出する

- クリエイティヴアートを使用した教育の提供
- 世代を越えて展開するプロジェクト
◇プロジェクトの内容
┃アフリカ系・カリブ系・南アジア系コミュニティの女性たちの出産にまつわる世代を越えた物語を記録する
┃成果は〈アーメッド・イクバル・ウラー人種関係資料センター［Ahmed Iqbal Ullah Race Relations Resource Centre］〉（〈マンチェスター中央図書館〉内の機関：移民・人種・民族に関するヨーロッパを代表する専門機関の一つ）に保管される
- https://www.racearchive.org.uk
- 今後50年から100年にわたってアーカイヴに保管される予定
◇過程
―“私たちは数年前から、特に黒人ならびにアジア系女性のコミュニティにおいて、彼女たちによりよいアクセス、よりよい経験、よりよい結果を提供するために活動してきた。その過程で、私たちの母親の母親世代も含む過去の出産経験者たちから、昔の出産はどうだったのかについて、たくさんの話を聞かせてもらう機会を得た。私たちはこうした活動をそれまで見たことがなかったので、とてもよいアイデアだと思った。”（創設者ナオミ・ペンバートン ＊以下同じ）
◇背景にある問題
- 黒人女性・アジア系女性の妊娠・出産における死亡率ならびに黒人の新生児の死亡率は、白人の数倍に及ぶという実態。
- 有色人種・黒人の女性には妊娠に対して否定的なイメージをもつ傾向がある
◇ねらい
―“このプロジェクトは、黒人女性にとって妊娠がいかなるものかをめぐるネガティヴな対話からシフトし、問題を押し流すことなく、妊娠がもつ文化的・伝統的側面も祝福することで、妊娠に明るさをもたらすことを目的としている。”
◇意義
―“これまでに記録したコミュニティの経験の声のなかには、女性たちが直面した困難やトラウマを浮き彫りにするものだけでなく、私たちを支え助けてくれる可能性のある、現在に至る過程で失ってしまった文化的慣習や伝統に関するものもある。”
◇成果の残しかた――特徴的な点
┃オーラルヒストリーの記録だけでなく：ドキュメンタリー制作／ライヴの舞台上演／アート展示／書籍刊行といった形態でも
◆運営
◇センターのコミュニティアーキヴィストがプロジェクトリーダーとボランティアにトレーニングセッションを実施
―“トレーニングセッションでは、伝統的に周縁化されてきた物語を記録ことの重要性や、通常の公的記録のなかに存在しない歴史を記録するにはオーラルヒストリーの作業がうって

つけの方法である理由について、話し合った。”（コミュニティアーキヴィスト：ライラ・ベンハイダ ＊以下同じ）
◇有益な協働関係
—“プロジェクトスタッフとボランティアたちは、「語られざる村の物語［Untold Stories of the Village］」展（展示内容：https://librarylive.co.uk/event/untold-stories-of-the-village-launch-event/）に必要な多様な経験と情熱を豊富に保持している。このような刺激的な女性グループをサポートできることを、私たちはとても嬉しく思っている。”

◎6　事例2：シェフィールド

◆地元の公的アーカイヴを活用しつつ、一つの都市の女性たち一人一人の歴史を記録していく試み——〈シェフィールド・フェミニストアーカイヴ〉の事例
- （Sadler and Cox 2018; Whittle 2021）
◇主体：〈Sheffield Feminist Archive〉
- https://sheffieldfeministarchive.wordpress.com
◇SFAの位置づけ——アーカイヴがもつ問題の整理から：ローザ・サドラーとアンドリュー・マーティン・コックスによる指摘
┃既存のアーカイヴは社会の多様性を反映していない：という問題に対して
- アーカイヴィング活動に関わる人の枠を広げる
- アーカイヴに加える新たな資料を生み出す（オーラルヒストリー等）
┃アーカイヴ資料のなかに経験が反映されていない存在の一つが女性
- イギリス中・世界中に、女性ならびにフェミニストの経験を記録しアーカイヴしようと努めるフェミニスト・アクティヴィストのプロジェクトが多く存在するが、SFAはその一つ。
◇概要
┃2014年春に活動開始
┃—“当初のプロジェクトグループは、シェフィールドを拠点とするフェミニズムの議論と活動に取り組むグループ〈シェフィールド・フェミニストネットワーク〉の有志メンバーで構成された。グループは他のフェミニストアーカイヴとも連絡を取り合ってはいたが、自らの限られたリソース〔資金・人員・専門性など〕を考慮したうえで、自分たち自身で継続できる活動だけに取り組む必要性を認識していた。”（Sadler and Cox 2018）
◇草の根のアクティヴィズムに取り組むボランティア主導のコミュニティアーカイヴ・プロジェクト
◇活動理念：シェフィールドのフェミニスト（フェミニズム運動）の過去と現在を記録し・保存し、誰でも利用できるようにする。
◇自治体が運営する〈シェフィールド市立文書館〉との協働
┃地理的制約のなかであらゆる種類の資料を収集するよう努める
◇シェフィールド市から2000ポンドの助成金を得る
┃必要な設備の購入

┃オーラルヒストリー記録のためのインタヴュアー養成研修を2回実施：2015年5月・6月に約25人が参加
◇“安全で友好的な空間の創出”を目指す
　＊キーワード：セーフ（セーファー）スペース［"safe(r) space"］
┃フェミニズムの理念を体現する活動環境を整える
◇目標の一つ：“歴史的に主流のフェミニズム運動から周縁化されてきた人々を肯定する空間の構築”
◇継続的プロセス：“インターセクショナル［交差的］・フェミニストスペース”を発展させること
◇オーラルヒストリー・プロジェクトへの参加の呼びかけ
- https://sheffieldfeministarchive.wordpress.com/oral-history-project/
┃―“オーラルヒストリー・プロジェクトは、SFAの中核をなすもので、2015年の開始以来、50名以上のフェミニストや女性の物語を記録してきました。私たちは、シェフィールドでフェミニズムやジェンダー平等の活動に関わってきた個人・集団の物語と記憶を、過去から現在に至るまで、規模の大小を問わず記録することを目指しています。”
┃―“ボランティアのインタヴュアーは全員〈オーラルヒストリー協会〉の研修を受けており、とても親しみやすい環境を整えています！　インタヴューは対面でもリモートでも、あなたの都合のいい時間と場所で実施することができます。”
◇現物資料の寄贈の呼びかけ
┃―“シェフィールドのフェミニズム運動に関する資料をお持ちですか？　あなたは女性解放運動〔第2波フェミニズム〕の時代にシェフィールドにいましたか？　現在、この鉄鋼業の都市でフェミニズムの活動に携わっていますか？　もしそうなら、ぜひ連絡をください。そして、あなた自身のアーカイヴを保存するお手伝いをさせてください！”
┃―“〈シェフィールド市立文書館〉に寄贈された資料はすべて、シェフィールドにおけるフェミニズム、女性解放運動、ジェンダー平等のための闘いを記録する、私たちの成長中のアーカイヴに追加されます。”
◆サドラーとコックスによるSFAメンバーへの調査（Sadler and Cox 2018）
- 最も活動的な5人のメンバーへの半構造化インタヴュー
◇調査から明らかになったこと：メンバーたちは……
┃自分たちの活動をフェミニズムの運動の一環として捉えていた
┃アーカイヴ記録における女性やフェミニストの存在感を高めたいという願望が、活動動機となっていた。
┃収集した資料が、一般の人々による女性・フェミニズム・ジェンダー関係の捉え方を変化させる一助になることを期待していた。
- ―“アーカイヴ記録における女性の周縁化を是正したいという願望と並んで、収集した資料がこれまでジェンダー関係ひいてはフェミニズムについてじっくりと考えたことのなかった人々の目に触れる機会を作ることは、SFAの主要な目的である。”

┃フェミニスト・コミュニティとつながること、アーカイヴのための資料収集、アーカイヴの広報活動、アーカイヴィング実践に関する挑戦、といったことを含む共同作業のなかで、自分たちが積極的かつ多面的な役割を担っていることを認識していた。
┃公的アーカイヴ機関との協働については：
- ―“アーカイヴィング活動の開始時点から、公的アーカイヴである〈シェフィールド市立文書館〉と協働する道を選択した。それによって得られるステータスや公的なアイデンティティ、認知度、アーカイヴィングの専門知識などが、SFAのプロジェクトに利益をもたらし、自らの目標を達成することを可能にすると考えたからである。”
- ―“自分たちの歴史が周縁化されてきたと認識している他のコミュニティアーカイヴィング・グループとは異なり、このグループは――アーカイヴに関しての限られた、さらにはネガティヴな過去の経験にもかかわらず――公的アーカイヴという機関に対して反感や不信感を抱いていない。彼女らは、公的アーカイヴがプロジェクトにもたらす利益のために、それをより積極的に活用しようと試みているようだ。”
- ―“〔SFAの目的を実現するには〕できるだけ広範囲の人々が目にし、利用しやすく、かつ高水準な保存が可能な場所で、資料の捕捉・収集・保存がなされる必要がある。それによって、アクティヴィストが自由にコレクションを広報したり、さらなる寄付を促したり、より多くの人々の物語を収集したり、アウトリーチ活動を実施したりすることが可能になる。ほとんどの公的アーカイヴが資料を確実に保存できる機能をもつなかで、〈シェフィールド市立文書館〉という地方自治体のアーカイヴがこのグループのパートナーに選ばれたのは、認知度とアクセスの良さという点で理想的な場所にあったからである。”
◇結論
┃―“結局のところ、このグループにとって、アーカイヴィングと記憶の収集は、それ自体がアクティヴィズムの手段なのである。”
◆プロジェクト《Women in Lockdown》
- https://sheffieldfeministarchive.wordpress.com/womeninlockdown/
◇趣旨と呼びかけ
┃―“あなたの地元のフェミニストアーカイヴが「あなたを」必要としています！　2020年3月22日以降、あなたの生活はどう変わりましたか？｜イギリスで初の全国的ロックダウンから2年近く経った今、私たちは、あらゆる世代・人種・民族の女性たちに、《ロックダウン下の女性たち》プロジェクトへの参加を通して、パンデミック期間中のシェフィールドでの生活体験を共有してもらいたいと思います。パンデミックによってアーカイヴ・博物館・学習スペースの利用制限が続くなかで、私たちはこの激動の時代における地元の女性たちの物語を捕捉し・保存し・増幅させるデジタルアーカイヴを構築したいと考えています。”
◇短い音声記録と文章を提供してもらう
┃募集案内の解説映像（Whittle 2021）
- YouTubeという現在最も普及力・影響力の強いメディアを積極的に活用
- 詳細な内容を簡潔にまとめている

◇テーマ：健康と安らぎ、コミュニケーション、政治、自分のフェミニズムの取り組みがどう変化したか、相互扶助とコミュニティ、ロックダウン下の日常生活、その他何でも。
┃ロックダウン下という非常事態期間ゆえにとりわけ顕著な影響が表れる領域（メンタルヘルスの維持管理や、アクティヴィズムの質的変化など）に焦点を当てようという意図が読み取れる。
◆SFAに関して指摘できる重要なポイント
◇公的アーカイヴ機関との連携のメリット
┃保存・管理における充実した環境の確保
- ただし（〈シェフィールド市立文書館〉はアクセス条件が良いとはいえ）資料の閲覧・視聴には一定の手続きが必要になる[*1]。一般利用者がそれをどこまでハードルとして捉えるかは、検討対象となるだろう。
[*1] https://sheffieldfeministarchive.wordpress.com/visiting-the-archive-2/
┃フェミニズムの「介入」がもたらす、アーカイヴの古典的秩序を変化させる可能性。
◇当事者が自分の記憶／言葉を自分で（相互に）記録することの意義
┃オーラルヒストリーに関する実践のハードルを下げる
- 記録方法の簡潔なマニュアル化→周知・共有
┃記録主体・記録対象の多様性（人種・階級・セクシュアリティ）を拡張することができる
- 収集された資料総体の多様性レベルが向上する
◇SFAの活動は……：シェフィールドに存在する無名の一般女性・フェミニストが、多様性を尊重した「歴史」の構築実践に参入することを通して、自らの立場・生活・思考を再認識したりアイデンティティを再獲得したりすることを可能にする。
┃単なる「資料収集」にはとどまらない社会的・運動的・教育的な意義
- エンパワーメント的な効果も：「フェミニズム」の実践であることの意味

◎7　二つの事例から――問題意識を拡張して――わかること

◆（a）「ヴァルネラビリティ［Vulnerability］」の重視
◇（1）妊娠・出産という／における困難な状況
◇（2）パンデミックとそれによるロックダウンという非常事態
→女性の身体・メンタル両面が脆弱性を強める状況で、いかなるサポートとエンパワーメントが可能か／がなされるべきか。
◇敷衍して考えれば……
┃日常においても：DV／移民シングルマザーの労働・育児／セックスワーカーの置かれた危い立場――といった問題の事例にアプローチが求められる
◆（b）「インターセクショナリティ［Intersectionality／交差性］」の重視
◇人種・民族・階級・障害……
＋「母」（妊娠・出産という条件）
＋世代

◇複数の周縁性を内包する／が絡み合う環境のもとで、抑圧を排した発展的な運営を目指す。
――（a）・（b）：「フェミニズム」の実践であるがゆえの特徴
◆古さと新しさの両立
◇オンラインツール／デジタル環境の積極的活用
┃一般の人々が新たにアーカイヴィングに関与する機会を増やす
◇専門的研修の実施体制を確立
┃オーソドックスな記録収集作業の質を担保する／向上させる
◆「地域」がもつ意味の大きさ
◇草の根のアーカイヴィングプロジェクトにとって地域（地元）の公立図書館・文書館がもつ大きな役割
┃文書／モノ資料にとどまらずオーラルヒストリーの実践においても重要
┃フェミニズム実践（の意義）に対して適切な理解のあるアーキヴィスト／ライブラリアンの存在が鍵となる
◇今回の事例では触れられなかったが、地元の博物館・美術館、そして大学との連携のありようにも注目する必要がある。

◎8　さらなる課題はどこにあるのか――少し本論を飛び越えて考えてみる
◇「女性史＝オーラルヒストリー」という制約化を自主的に強化してしまう危うさは？
◇「クィアオーラルヒストリー［Queer Oral History］」との接続は？
◇「地域性」同士はつなげられるのか？――可能にする条件とは？
◇オンラインとリアル、それぞれの取り組みへの参与者たちはつながることができるのか？――接続・交流を促進させる効果的な手法は？
◇草の根のフェミニズム実践に対して、研究者はいかなる介入をなしうるのか／なすべきなのか？

……

■文献
◇Hudson, Marc, 2023, "International Women's Day ‐ What Is Feminist Archival Practice?", *All Our Yesterdays*, March 7, 2023, (https://allouryesterdays.info/2023/03/07/international-womens-day-what-is-feminist-archival-practice/).
◇Mohdin, Aamna, 2023, "Manchester's Minority Ethnic Women to Tell 'Untold Stories' of Childbirth", *Guardian*, August 15, 2023, (https://www.theguardian.com/uk-news/2023/aug/15/manchester-oral-history-project-black-asian-women-childbirth).
◇Royal Academy of Arts, 2019, "Feminist Archiving and the Institution", *Royal Academy of Arts*, March 9, 2019, (https://www.royalacademy.org.uk/event/international-womens-day-2019-feminist-archiving-and-the-institution-talk).

◇Sadler, Rosa and Andrew Martin Cox, 2018, "'Civil Disobedience' in the Archive: Documenting Women's Activism and Experience Through the Sheffield Feminist Archive", *Archives and Records*, 39(2): 158-173, (https://doi.org/10.1080/23257962.2017.1387523).

＊タイトル日本語訳：「アーカイヴにおける「市民的不服従」――〈シェフィールド・フェミニストアーカイヴ〉による女性の活動と経験の記録」

◇Whittle, Sophie, 2021, "Women in Lockdown @ Sheffield Feminist Archive", *Sophie Whittle (YouTube)*, March 21, 2021, (https://www.youtube.com/watch?v=Cy2Lo2-_p2Y).